只見町ブナセンター
TEL 0241(72)8355

オオバボダイジュ

（学名：*Tilia maximowicziana*　）

［シナノキ科　シナノキ属］※科名は新しい分類体系（APG体系）ではアオイ科

▲オオバボダイジュ

▲荷綱（ニナ）

▲シナッカワを織り込んだバッグ

オオバボダイジュは、北海道から中部地方の山地に生育する直径1m、樹高20mを超える落葉高木です。葉も大型で葉身が18cmにもなり、葉の裏には放射状に伸びた毛が密生しビロード状の手触りがあり、色も白っぽく見えます。只見町では“シナノキ”と呼ばれますが、同じ仲間（シナノキ属）に別種としてシナノキという樹木も存在します。町内では、オオバボダイジュが山地渓流の谷底氾濫原に広く分布し、シナノキは谷壁斜面を中心に見られます。シナノキはオオバボダイジュに比べ葉裏に毛がないこと、葉が小型であることで容易に区別できます。

オオバボダイジュやシナノキは、内樹皮の繊維が丈夫で、昔から縄や紐などとして広く利用されてきました。内樹皮を利用するために、まず、地際で幹を伐採した後に生じる若い萌芽幹を選び、5－6月の盛んに水を吸い上げる時期に樹皮を剥ぎます。剥いだ樹皮は沼などの淀んだ水に浸ける、あるいは灰汁で煮るなどの方法で内樹皮を柔らかくします。そして、沢などで洗い、繊維の層を剥がし、乾燥させて利用します。只見町では荷物を縛る紐やソリの引き縄のほか、畳表の縦糸としても利用してきました。そういった利用も今はほとんどありませんが、ヒロロで編んだバックの横糸などとして今もなお使用されています。

企画展

詳しくは、只見町ブナセンターまでお問い合わせください

企画展アーカイブ「只見の手工芸」

今年度は、過去に行った企画展を振り返る企画展アーカイブを行います。第一弾は、只見の手工芸について、自然環境や利用される天然素材に着目しながら伝統技術によって作られたカゴやザルを中心に紹介します。

期　間：7月23日（月）まで開催中
場　所：ただみ・ブナと川のミュージアム　２階ギャラリー

※この広報紙は再生紙を使用しています
VEGETABLE OIL INK
※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

■ 発行／只見町　〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30
■ 編集／地域創生課広報広聴係　http://www.tadami.gr.jp/　☎0241(82)5220